

事業名	平成 28 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「能登の葉っぱビジネスを金沢へ！ 実践型マーケティングプロジェクト」	
実施主体	輪島市	
活動形態	活動場所	輪島市三井町、金沢市
	活動人数	金沢大学人間社会学域経済学類 2 名、金沢星稜大学経済学部経済学科 1 名、 輪島市地域おこし協力隊 1 名 計 4 名
	期間	平成 28 年 8 月～12 月（延べ 12 日間）
活動内容	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>輪島市では、里山で採取した葉っぱを、料理を引き立てる添え物「つまもの」として販売する「葉っぱビジネス」を展開している。研究では、金沢市内の青果店等へのつまものの販路拡大により、過疎化で産業が衰退しつつある地区の新たな生業創出の可能性を探る。金沢市内でのつまもの需要を調査し、販路拡大のための営業方針を検討する。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>三井で現地調査を行い、どんな葉っぱが採れるのか、それぞれの種類や特徴をリサーチ。さらに、三井地区の特徴や組織についての基礎知識を学び、葉っぱビジネスの成功例として知られる徳島県上勝町の事例を住民と情報共有した。さらに、実際に山に入り、アテなど出荷用の葉っぱの採取方法や選別方法を体験。採取では、危険な山道を進んで行くこともあり、選別作業ではサイズ調整が細かいなど、出荷までの過程における苦労を体感した。</p> <p>続いて、金沢中央卸売市場を訪問し、つまものの流通量や出荷先などを市場の担当者にヒアリング。さらに、金沢市内の老舗料亭「壽屋」を訪ね、つまものを購入し、使用している立場での意見や販売の工夫についてのアドバイスを受けた。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>三井地区において現在採取、出荷されているアテ、笹、茅については、ある程度の需要が見込めることから生産の継続は可能。また、金沢市内でつまものを扱う料亭の関係者も、自分で採取したり、市場へ買い付けにしていることから、需要があることを裏付けた。ただ能登産を前面にアピールすることは難しく、販路拡大に向けては、情報発信が必要不可欠であると分析した。</p>	

事業名	平成 28 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「移住者（風の人）と地域住民（土の人）をつなぎたい!!～空き家を活用した移住・交流の場づくり～」	
実施主体	珠洲市	
活動形態	活動場所	珠洲市若山町上黒丸地区
	活動人数	金沢工業大学環境・建築学部建築デザイン学科 1 名、金沢大学人間社会学域法学類 1 名、金沢美術工芸大学油画専攻修士 1 名、珠洲市企画財政課の職員 3 名 計 6 名
	期間	平成 28 年 7 月～12 月（延べ 15 日間）
活動内容	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>市がシェアハウスとして改修し、移住希望者にシェアハウスとして貸し出す空き家について、その一部を移住者と地域住民とのコミュニティスペースとして継続的に活用する仕組みやプランを企画、実践する。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>集落説明会や、住民への聞き取りなどの現地調査を実施。聞き取り調査では、上黒丸地区の魅力に加え、困りごとなどもリサーチした。その結果、上黒丸地区は自然が豊かで住民の人柄が温かいという面がある一方で、大雪被害や雑草処理のわずらわしさ、祭りなどのイベントが少ないという懸念も浮かび上がった。また、シェアハウスに関する質問については、移住者にマナーの順守を求めているほか、そもそも移住者への関心が低かったり、シェアハウスがどんな施設なのか理解が広まっていないことが分かった。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>シェアハウスの認知度を上げるため、活動目標を移住者と地元住民の交流の場のプランニングから、地元住民にシェアハウスについて知ってもらうことに変更。住民を招いた交流会「上黒丸すてきにくらす会」を開き、シェアハウスの説明や居住する移住者の自己紹介、上黒丸地区の魅力などを話し合った。また、移住者と地元住民それぞれからの意見や要望を出してもらい、移住者からは「積極的に声掛けしたい」「地域の行事に参加したい」、地元住民からは「移住者の生活の相談に乗ってあげたい」「情報を共有したい」などの声が聞かれた。交流会後のアンケートでは、参加者の約 7 割がシェアハウスへの理解が深まったとし、移住者に親しみを感じた住民は約 8 割にのぼった。調査を通して、シェアハウスの居住者と地域住民の距離を近づけることができた。</p>	

事業名	平成 28 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「移住者にとって魅力あるまちづくり」	
実施主体	穴水町	
活動形態	活動場所	穴水町甲地区
	活動人数	金沢大学経済学類 1 名、金沢大学人文学類 2 名、穴水町政策調整課の職員 1 名、穴水町移住定住支援員 1 名 計 5 名
	期間	平成 28 年 8 月～9 月（延べ 15 日間）
活動内容	<p>&lt;課題・背景&gt;</p> <p>穴水町外出身者の視点で穴水町甲地区の魅力进行调查し、地元住民とその情報を共有すると同時に町外に向けて発信。同地区を始め、過疎高齢化が進む穴水町への移住者受け入れ機運を醸成し、同地区の空き家利活用の促進を提案する。甲地区の人口は平成 28 年時点で 393 人。現在のままの人口減少が進めば、この先の 20 年でさらに 3 分の 1 が減少すると予測されている。これに伴い空き家も増加すると予測されるが、防犯面や景観の損失などの面から問題視されており、課題解決が急がれている。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>住民への聞き取りや、交流、現地調査などを通じて、甲地区に住む住民の思いや土地の魅力を発掘。その結果、テレビでも取り上げられた「田舎のコンビニ」として知られる有名な商店があることや、地物を使った味噌「かぶとみそ」の評判、自家製味噌づくり体験ができることなどを確認した。さらに、区内には診療所や交番、郵便局など生活に必要な施設が点在していることから利便性も高く、それらを含んだ 13 の魅力を発見した。続いて、調査の結果を基に絵や写真を多用した甲地区のまち歩きマップを作成。地区の魅力を地図に落とし込んだ。</p> <p>現地調査を進める中で、空き家の多さも確認した。広報紙で空き家バンクの助成金制度を紹介。さらに岐阜県から羽咋市に移住した夫婦が空き家を利用して経営するカフェや、県外出身の男性 2 人が田舎暮らしを求めて能登町に移住し、飲食店を経営している活用例などを調査した。甲地区での空き家活用例としては、農家民宿の経営を目指し、横浜から移住した男性の例を調べた。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>作成した甲地区のまち歩きマップを住民に披露し、併せて空き家増加の問題や活用例を住民に説明。甲地区の魅力を発信して移住を促すことで、空き家の利活用も進むとした。人口減少に歯止めをかけるためにも、移住者の受け入れ体制を整えていくことが大切だと結論付けた。</p>	

事業名	平成 28 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「RESAS 活用による地域資源を活かした戦略施策の立案と展開」	
実施主体	能登町	
活動形態	活動場所	能登町全域
	活動人数	金沢工業大学工学部電子情報通信工学科 1 名、金沢大学人間社会学域経済学類 1 名、金沢大学 1 名、能登町企画財政課地域戦略推進室の職員 1 名 計 4 名
	期間	平成 28 年 7 月～12 月（延べ日数 28 日間、うち能登町での活動は 21 日間）
活動内容	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>RESAS（地域経済分析システム）を活用し、地域資源を活かした戦略施策を掲げる「能登町☆RESAS ワークショップ」の運営体制の確立。同町では、役場職員や地元金融機関、地元高校生など多世代・異業種の住民が月 1 回参加し、RESAS の客観的データを用いて能登町創生に向けた戦略施策の企画立案を行っており、その活動をサポートする。さらに、ワークショップの実践をきっかけに、地域でのまちづくり気運を醸成する。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>RESAS ワークショップのテーマを決めるため、能登町内各地を現地調査。歴史ある鍛冶屋や農家民宿が人気の「春蘭の里」などを訪ね、関係者に戦略的・先進的な経営のポイントなどをヒアリングした。また九十九湾などの観光スポットにも足を運び、町の魅力をリサーチ。3 人の学生のうち、1 人が宇出津出身であったため、能登高校生へのヒアリングも実施した。また、「能登町☆RESAS ワークショップ」の取組の一つとして、フェイスブックページを立ち上げた。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>現地調査を基に RESAS を用いて能登町を分析した結果、人口減少の要因でもある「少子化」に着目。子どもの数が減ることによって教育機関の統廃合が進み、地元で学ぶ時間が減少。児童生徒のふるさとへの愛着心が低下する恐れがあることが分かった。自宅から高校までの距離が 20 キロ以上あると定住人口が減少するという専門機関の研究成果も受けて、能登町における能登高校の必要性を認識。ワークショップのテーマには「自分たちで魅力ある能登高校をつくろう」を掲げ、プレゼンを行った。</p> <p>さらに、今回の取り組みを国が実施する RESAS 政策アイデアコンテストに応募し、中部地区予選を突破して中部代表に選出された。この成果を町長にも報告した。</p>	